

令和 8 年 用

J A さがえ西村山

# 果樹病害虫防除暦

(さくらんぼ・りんご・西洋梨・ぶどう・もも・すもも)



## 安全・安心なくだものを消費者へ

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- 農薬は散布面積に応じた適正量に調合し、薬液が残ることがないようにするとともに、農薬を希釈する際は、水道水または汚染の可能性がない水を利用しましょう。
- 散布後は、調合タンクやホースに農薬が残らないよう散布器具をきれいに洗浄してください。
- この基準は、令和 7 年 10 月 1 日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

## 農薬散布時の危被害を防止しましょう

- 農薬を使用する際は、使用者及び栽培作物に対する危被害防止に加え、周辺住民及び環境に対しても、万全な安全対策を講じてください。
- 散布に当たっては、飛散による危被害発生防止のため、散布時間帯及び散布方法に留意するとともに、周辺農作物や周辺環境、風等の気象条件を十分考慮してください。

1. 植物成長調整剤

薬剤名（成分名）	適用作物	使用目的	使用時期	使用濃度	注意事項
エコルーキー （ギ酸カルシウム）	りんご	摘花	満開日 （追加散布を要する場合は2～3日後に1回）	100～150倍 10a当たり300～600ℓ	1. 結実が非常に良い地帯を除いては人工受粉を実施する。 2. 使用回数2回以内
ヒオモン水溶剤 （1－ナフタレン 酢酸ナトリウム）	りんご	収穫前落果防止	収穫開始予定日21～4日前 （但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける）	1,000～2,000倍 10a当たり300～600ℓ	1. 高温時の散布は避ける。 2. 調整した薬液はその日のうちに使用する。 3. 使用回数2回以内

2. 交信かく乱剤（性フェロモン剤）による防除方法

（1）剤の種類と対象害虫

薬 剤 名	作 物 名	10a当たり 設 置 量	対 象 害 虫							
			ハマキムシ類		シンクイムシ類			その他害虫		
			ミダレカケモンハマキ	リンゴカケモンハマキ	リンゴモンハマキ	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	スモモヒメシンクイ	コスカシバ	ヒメコスカシバ
コンフューザーN	果樹類	150～200本		○	○	○	○			
	すもも	200本						○		
ハマキコンーN	果樹類	150本	○	○	○					
スカシバコンL	果樹類	40～100本							○	
	かき	40～100本								○
ナシヒメコン	果樹類	50～100本					○			
ボクトウコンーH	果樹類	100～150本								○

（2）使用方法

- 1. 設置場所は、目通りの高さに8割、残り2割を上部に、園内均一に設置する。
- 2. 傾斜地では、傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
- 3. 小面積で使用する場合や園周辺部で被害の多い場合は、園周辺の立木、支柱などにも設置する。
- 4. 風の強い場所では、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。
- 5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

3. 果樹園用主要除草剤使用基準

除 草 剤 名 （成 分 名）	適 応 樹 種	10a 当 たり 使用量（散布液量）	年 間 の 使用回数	使 用 時 期	主 な 特 性 と 作 用	注 意 事 項
バスタ液剤 （グルホシネート18.5%）	りんご、ぶどう、 なし、もも、おうとう、 小粒核果類、 かき、くり、 ネクタリン、 ブルーベリー、 キウイフルーツ	一年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～1,000ml （キウイフルーツ・ くり、500～750ml） 水量 100～150ℓ	2 剤の 使用回数 の合計  3 回 以 内	く り 収穫30日前まで りんご・ キウイフルーツ 収穫21日前まで 他樹種 収穫前日まで	1. 一年生及びスギナ、クローバー等に 効果が大きい。オオバコ、ギシギシ は効果が劣る。 2. 効果の発現は2～5日後、効果の持 続期間は40～50日である。	1. 土壌に落下すると効果がないので、 薬液が雑草の茎葉全体に均一にか かるように散布する。 2. 雑草の生育期（草丈30cm以下）に 散布する。
ザクサ液剤 〔グルホシネートP〕 〔ナトリウム塩11.5%〕	果樹類	一年生雑草 300～500ml 多年生雑草 500～1,000ml 水量 100～150ℓ		く り 収穫30日前まで りんご・ キウイフルーツ 収穫21日前まで 他樹種 収穫前日まで	1. 一年生雑草及び多年生雑草まで効果が 大きい。 2. 効果の発現は2～3日後、効果の持 続期間は40～50日間である。	
ラウンドアップマックスロード 〔グリホサート 〕 〔カリウム塩48%〕	果樹類 （かんきつを除く）	一年生雑草 200～500ml 多年生雑草 500～1,000ml スギナ 1,500～2,000ml 水量 通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ	3 剤の 使用回数 の合計  3 回 以 内	収穫7日前まで	1. ギシギシ、ヨモギ、タンポポ、チガ ヤなど多年生宿根雑草に効果が高く、 一年生雑草にも効果が高い。スギナ には効果が劣るので少量散布とする。 2. 効果の発現は2～7日後、効果の持 続期間は60～70日である。	1. 専用ノズル（ランドノズル）を使 用し、散布むらのないようにする。 2. 展着剤は加用しない。 3. 雑草の生育期（草丈30cm以下）に 散布する。 4. 多年生雑草が局部的に発生してい る場合はスポット処理する。 5. 効果の発現が遅いので、処理後7 ～10日間は刈り払ったり耕起した りしない。 6. 秋処理（11月中下旬）は翌春の除 草効果が高い。
草枯らしMIC 〔グリホサートイソプロピル〕 〔アミン塩41%〕	果樹類 （かんきつ、パイ ナップを除く）	一年生雑草 250～500ml 多年生雑草 500～1,000ml 水量 通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ		収穫7日前まで	1. ギシギシ、ヨモギ、タンポポ、チガ ヤなど多年生宿根雑草に効果が高く、 一年生雑草にも効果が高いが、スギ ナには効果が劣る。 2. 効果の発現は7～14日後、効果の持 続期間は60～70日である。	
タッチダウンiQ 〔グリホサートカリウム〕 〔塩44.7%〕	果樹類 （かんきつを除く）	一年生雑草 250～500ml 水量25～100ℓ 多年生雑草 500～1,000ml 水量25～100ℓ スギナ 1,500～2,000ml 水量25～50ℓ		収穫5日前まで	1. 一年生雑草からヨモギ、ギシギシな ど多年生雑草まで効果が高い。 2. 効果の発現は、一年生雑草では2 ～4日後、多年生雑草では7～14日 後、効果の持続期間は50～60日であ る。	

◎詳しくは、営農指導員・JAアグリ各店にご相談下さい。

果樹用葉面散布剤のご紹介

1. 葉面散布

植物は根だけでなく、葉からも養分を吸収することができます。葉面散布は、葉から直接養分が吸収されるので施用効果が速やかに現れます。しかし、葉面散布は応急対策であり、適切な施肥や土壌管理が基本です。  
＜葉面散布をすると効果がある場合＞  
○ 湿害などで根から養分がよく吸収できなくなったとき      ○ 要素欠乏を急いで治すとき      ○ 葉色を濃くしたいとき

2. 散布時期

散布するのは、葉面吸収の盛んな午前中がよく、朝つゆが乾いたら散布します。日中の高温時は、葉害がでやすいので避けてください。降雨前や風の強いときにも散布は避けてください。

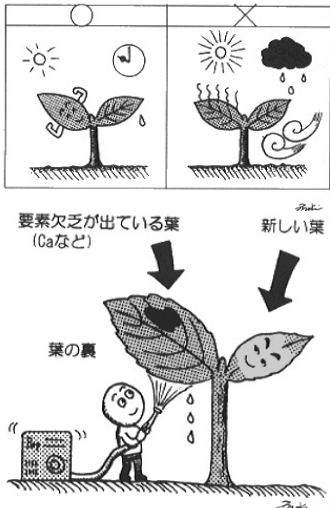
3. 散布濃度

市販の葉面散布剤を用いるときは指示された方法で散布します。濃度が高いと葉焼けなどの障害が生じますので、幼植物や生育の衰えたときは薄くします。

4. 散布方法

養分吸収は、葉の表面より裏面のほうが多いので裏面にも散布します。古い葉より新しい葉のほうが吸収が盛んなので新葉を中心に散布します。カルシウムのように移動しにくい要素は、欠乏の現れている葉に散布します。

5. 主な果樹用葉面散布剤



名 称	保 証 成 分 (%)				作 物	施 用 時 期	使 用 濃 度		摘 要	主 な 効 果			
	N	P	K	そ の 他						樹 勢 回 復	着色増進・品質向上	生理障害防止	その他
ヨーヒB5号	2	5	4	Mg-3, B-5, Fe-0.1 Cu-0.07, Mo-0.2	りんご、もも、 おうとう、なし、 ぶどう、うめ	開花3日後 果実肥大期 収穫後	単用	600倍	結実促進 果実肥大 樹勢回復	○		○	○
ヨーヒP12号		12	1	B-0.5, Ca-3	りんご、ぶどう、 おうとう	花芽分化期前 収穫1ヶ月前～着色期	単用	600倍	花芽分化増進 着色増進		○		○
エイトピー	2.5		5.5	Mn-0.25, B-8, Fe-0.13, Cu-0.03, Zn-0.068	おうとう	開花直前～肥大期 (4～5回)	1,000～2,000倍		結実促進 ミソ玉軽減 肥大・果梗の充実	○		○	○
						収穫後 (2～3回)			花芽の充実 貯蔵養分の蓄積				
					ぶどう	開花10日前～ (2～3回)			花振り予防	○		○	
						落花後 (2～3回)			肥大促進 初期生育向上				
					すもも	落花後 (2～3回)			ホウ素欠対策			○	
トップスコア・リン			28	13	おうとう	収穫20日前、10日前 (2回)	1,000～2,000倍		着色・糖度向上、 肥大促進		○		○
						収穫後7～10日毎 (2回)			花芽充実、 貯蔵養分促進				
					ぶどう	落花直後から連続 (3回)			着色、糖度向上		○		
					りんご(ふじ)	9月上旬、中旬 葉つみの7～10日前まで(2回)							
					りんご(つがる)	葉つみの5～10日前まで (1～2回)							
					もも	収穫20日、10日前 (2回)							
葉友	5	0.1	0.5	約20種類のアミノ酸の凝縮液	果樹類	萌芽期より落葉期まで	単用	1,000倍	植物生理活性 果実肥大 着色増進	○	○		
モーニングA (液肥29号)	2	7	1	B-0.5 効果発現促進剤:Ca-0.31	りんご(早生、中生)	収穫15日～20日前	500～600倍に希釈して、 樹全体に散布する。		着色促進 品質向上		○		
					りんご (ふじなど晩生種) かき、なし	収穫30日～40日前							
					おうとう	着色初期 収穫7日前							
					もも	収穫15日～30日前							
					ぶどう	とびの入った頃 水まわり期、着色初期							
バイカルティ				カルシウム(CaO)=34% ギ酸カルシウム-80 (有機酸カルシウム) 高分子カルシウム-20	果樹類	落花直後から	1,000倍		生理障害防止 カルシウム補給 乾燥促進			○	○
					もも	落花直後 又は落花10日後から (10日毎 3～4日)			軟化防止			○	
サンバリア				カルシウム(CaO)=26%以上 ルチン配合 (ポリフェノール)	りんご	スポット的に ・葉とり、玉回し前に2～3回	1,000倍		ビターピット 果面荒れ 日やけ 果点荒れ			○	○
アイスバリア		1.5	1.0	Mg-1.5	果樹類	霜・低温の直前 芽出し10日後から2～3回	300～500倍		霜・低温対策				○
液体マンガン				水溶性マンガン-13.5	ぶどう	軽度障害園	2回目ジベレリン処理時	ジベレリン処理液に1%濃度(ジベレリン処理液2ℓに対して14.5ml)で加用し、浸漬処理する。	着色障害予防 房枯れ予防			○	
						重度障害園	2回目ジベレリン処理 2～3日前	0.5%液(水200ℓ当り750ml)を200ℓ/10a散布する。					
							2回目ジベレリン処理時	ジベレリン処理液に1%濃度(ジベレリン処理液2ℓに対して14.5ml)で加用し、浸漬処理する。					
マリンパワー	0.071	0.016	0.05	Ca-0.027	おうとう		収穫直前散布 更に7日後	2,000倍 3,000倍	うるみ防止				○
アクアカル				有機酸カルシウム-12	おうとう、りんご、 ぶどう	落花後～果実肥大期	単用	500倍	うるみ防止、 ビターピット軽減、 脱粒防止			○	○
ビビッドグリーン	7	6	4	苦土1% 海藻エキス入り	果樹類	展葉初期～果実肥大期 (3～5回)		500倍	樹勢強化 成薬化促進	○			
ビビッドレッドC	0	8	7	海藻エキス入り	果樹類	着色初期～収穫初め		500倍	着色促進		○		
ベストⅡ	6	10	2	海藻ペーストと魚肉抽出物入り	おうとう	収穫直前、更に5日後		500倍	着色増進		○		
ストピットⅡ				水溶性カルシウム (CaOとして35%以上)	りんご	落花直後又は10日後頃から 収穫前までの間に3回以上		500倍	生理障害予防、 油上がり抑制			○	○
カネカペプチド	10	10	10	酸化型グルタチオン	おうとう	5月下旬～6月上旬(2回)		10,000倍	高温・乾燥対策				○
マリンインバクト	0.1		3.0		果樹	落花後～果実収穫始期		1,000倍	樹勢回復 高温・乾燥対策	○			○
ファイトカル	5			有機キレートカルシウム10.5% 保湿浸透剤	果樹	果実肥大期～収穫前日まで		1,000倍	果実軟化防止				○
ファイトプラス	3.0		7.0		果樹	着色始期		1,000倍	着色促進		○		

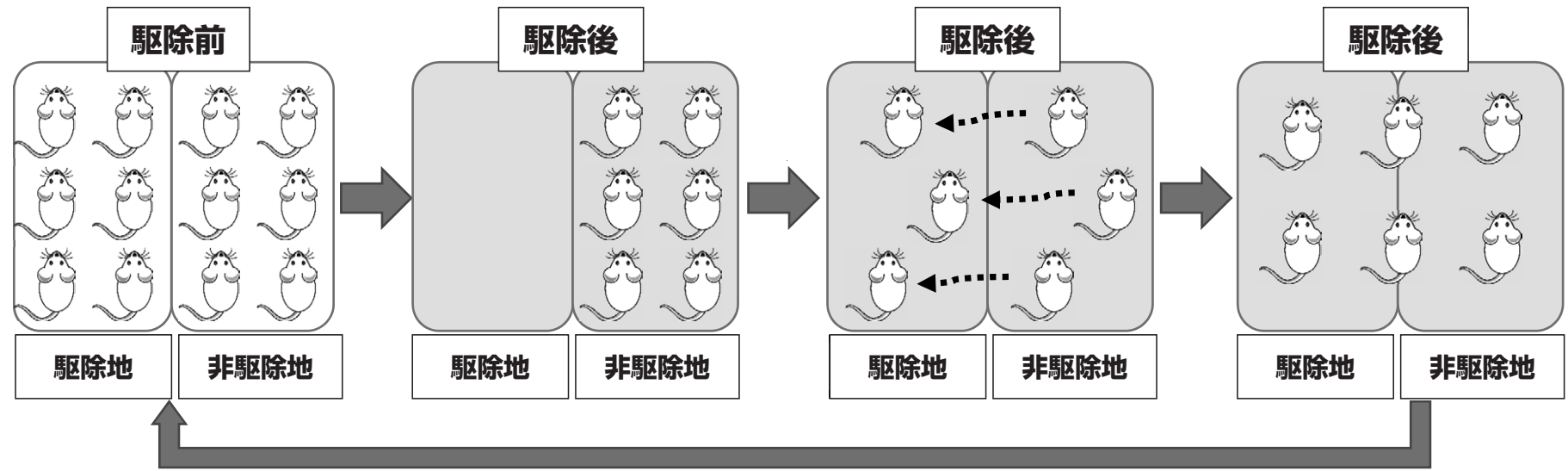
※他農薬との混用の可否等もございますので、詳しくは、営農指導員・JAアグリ各店にご相談ください。



1. 広域一斉防除の実施

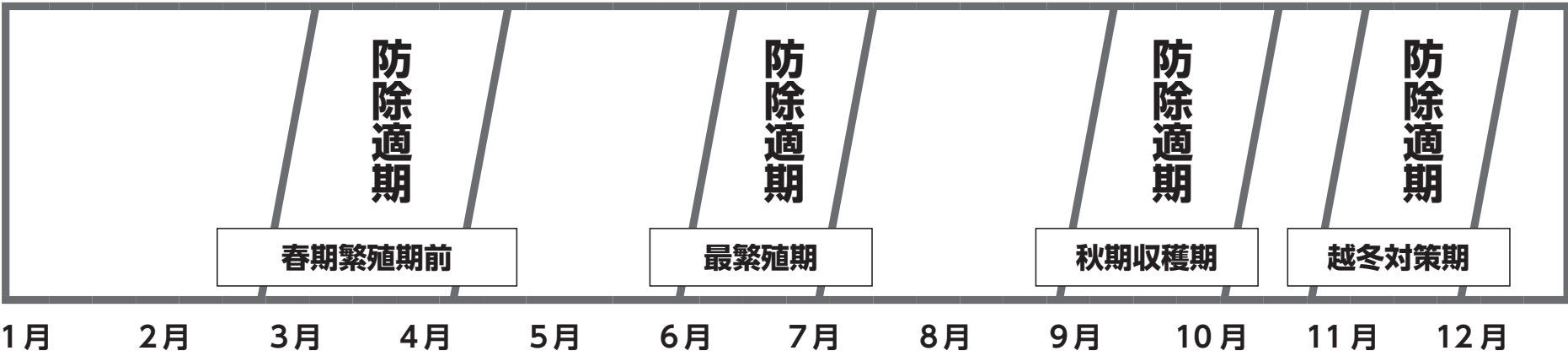
ネズミには、季節や作物の生育段階により、餌を求めて移動しながら被害をもたらす種類もあります。自園で対策を講じて、周辺で増加したネズミがある時期突如侵入し被害をもたらすことがあります。新たなネズミの侵入を防ぐために広域で一斉防除を実施しましょう。

(参考) 駆除地へのネズミの侵入モデル図



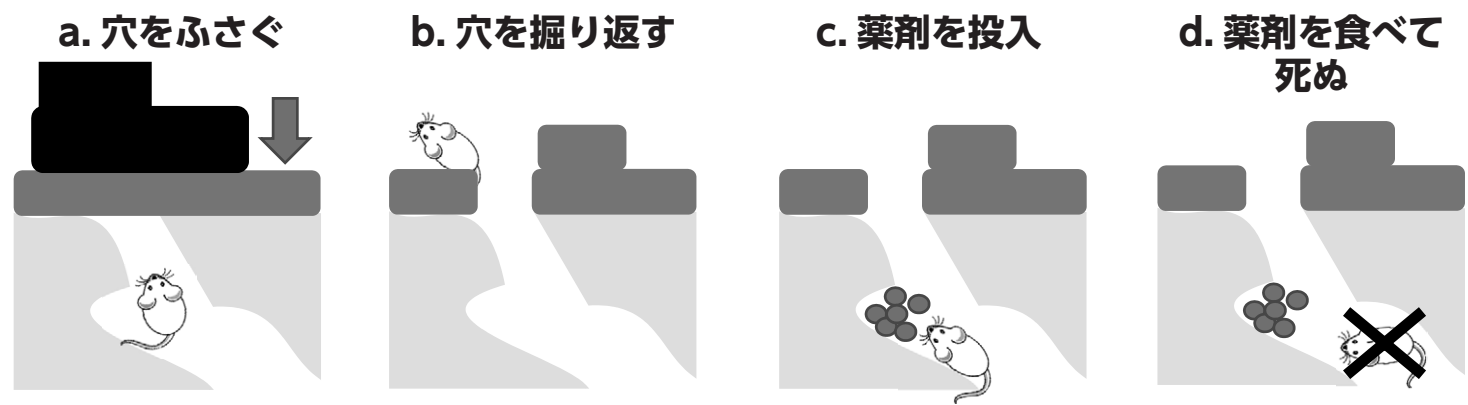
2. 防除時期と回数

防除時期は、春期繁殖前及び秋季収穫後の防除が主体となります。  
果樹苗木への被害防止に向けて、薬剤及び耕種的防除を徹底しましょう。



3. 薬剤の効果的なまき方

下図のように、薬剤をまく前日に空いている穴を全部ふさぐ。防除当日、空いた穴に薬剤を投入する。ネズミのいる場所に効果的に投入できます。



4. 薬剤の種類と散布量

ねずみは人の臭いを警戒するため、殺そ剤を使用する際は必ず手袋を着用して下さい。  
タバコや香水等の臭いのするものは、絶対付着しないよう注意して下さい。

薬 剤 名	特 徴	使 用 量
ヤソジオン（劇） 【規格 500g】 【果樹用 10g × 50 包】 【畑作用 5g × 100 包】	■ 累積毒（一定量食べて死亡） ■ 抗血液凝固作用により内臓器官の出血・充血により死亡 ■ 効果が現れるまで2～3日かかる	果樹用 10g 袋 20～30 包／10a
		畑作用 5g 袋 40～60 包／10a
Z・P 1% 【規格 1kg】【粒状】	■ 急性毒（1 回だけ食べて死亡） ■ 摂取後胃酸によりリン化水素ガスが発生、3～5 時間で死亡する。	50～200g／10a
強カラテミン（劇） 【規格 1kg】【粒状】		1～2g（15～30 粒）／穴 （30～150g／10a）

※絶対に家ねずみ用として使用しないで下さい。  
※ネコやイヌ等のペットによる殺そ剤の破損や誤飲には十分注意して下さい。  
※誤って人が食べた場合は、すぐに医師の診断を受け、適切な対処を行って下さい。

薬液100ℓ 当たり農薬希釈早見表

倍 率	10倍	20倍	25倍	30倍	40倍	50倍	100倍	200倍
薬剂量 g・mℓ	10,000 (10ℓ・kg)	5,000 (5ℓ・kg)	4,000 (4ℓ・kg)	3,333 (3.3ℓ・kg)	2,500 (2.5ℓ・kg)	2,000 (2ℓ・kg)	1,000 (1ℓ・kg)	500
倍 率	250倍	300倍	500倍	600倍	750倍	800倍	1,000倍	1,200倍
薬剂量 g・mℓ	400	333	200	166	133	125	100	83
倍 率	1,500倍	2,000倍	2,500倍	3,000倍	4,000倍	5,000倍	8,000倍	10,000倍
薬剂量 g・mℓ	66	50	40	33	25	20	12	10

農薬相談窓口

- ・営農企画部営農指導課 ☎86－8184
- ・寒河江営農生活センター ☎86－8186
- ・大江営農生活センター ☎62－3217
- ・朝日営農生活センター ☎67－3535
- ・西川営農生活センター ☎74－2127
- ・河北営農生活センター ☎72－2125
- ・J A アグリ寒河江店 ☎83－5055

※平日午前9時～午後5時まで受付いたします。

さがえ西村山農産物安全・安心対策推進会議  
寒河江市、河北町、西川町、朝日町、大江町  
J A さ が え 西 村 山  
さがえ西村山果樹振興協議会  
J A 全 農 山 形  
N O S A I 山 形



太陽と自然の恵み

無断転載禁止